梅雨のお話

先週の月曜日、6 月 14 日に関東地方は梅雨入りをしました。雨が多くて、蒸し暑く、天気が悪い日が続いています。何となく、気持ちが沈んでしまいますね。さて今日は、この時季の天気についてのお話です。

６月の初めから７月の中ごろまで、よく雨が降って、気温が高く、じめじめした天気が続きます。日本ではこの時季のことを「梅雨」と呼んでいます。これは、ちょうど梅の実が熟すころであることから、梅の雨と書いて「梅雨」と呼ぶのだそうです。実は、このように雨が多いこの季節は、日本だけではなくて、中国や韓国、台湾にもあるそうです。それぞれの国で呼び方は違うそうです。

それではなぜ、このような天気が続くのでしょうか。簡単言うとこういうことです。日本を中心とした地域にはこの時季、上空に四つの大きな空気のかたまりがあります。この四つの空気のかたまりはそれぞれ性質が違うので、上空でせめぎ合っています。そのせめぎ合っている境目に前線というのができて、雨が多くなるのだそうです。それぞれがなかなかひかないので、長い間雨が降り続くのです。

長い雨が続いて、嫌だなあ。外で遊べなくてつまらないな。と感じている人も多いかもしれません。でも、日本には、この雨は恵みの雨なのです。お米が育つのもこの雨のおかげです。野菜が育つのも梅雨のおかげです。梅雨を嫌がらないで、恵みの雨に感謝しましょう。

昔の人は、この梅雨を詩にして楽しんでいました。

「五月雨を　あつめてはやし　最上川」

これは松尾芭蕉という人の詩です。「雨がたくさん降って、山や川から五月雨を集めてきた最上川は、流れがはやく、勢いがある」といつもと違う川の様子をうたっています。

「五月雨や　大河を前に　家二軒」

これは与謝蕪村という人の詩です。「雨がたくさん降って、大きな流れの中に家が二軒取り残されている」という何となく心細い詩です。

日本人は、こんなうっとおしい季節でも、雨の恵みに感謝して、詩を作って楽しんでいたのです。そんな豊かな心をもちたいものですね。梅雨明けは、7 月 20 日頃と言われています。